

立命館大学国際平和ミュージアムの事業記録

—開館準備から1999年度まで—

I 設立経緯

1. 設立経緯

国際平和ミュージアムの設立は、1987年12月7日の全学協議会で確認された方針にもとづくものである。それをうけて、旧衣笠セミナーハウスの跡地に新セミナーハウスを建設するとともに、立命館大学の教育理念である「平和と民主主義」を具体化する社会開放施設として、平和の博物館の設立が課題とされたわけである。

1989年7月26日の常任理事会で、国際平和ミュージアム設立準備委員会と準備室の設置が決定された。準備委員会は8月5日から開催され、準備室は10月1日に開設された。9月2日から基本構想検討委員会がひらかれ、1990年5月9日に基本構想書が策定された。基本構想書は5月16日の常任理事会で決定された。そこから、準備委員会とともに、企画小委員会が設置され、準備室を中心に本格的な設立準備に入った。1990年7月に展示設計および施工を商工美術株式会社に委託した。1990年10月に展示の基本設計が完成した。ついで1991年3月20日に展示の実施設計が完成し、展示製作にはいった。

この間、1990年7月10日に、準備室は平和のための京都の戦争展実行委員会および京都平和祈念戦争博物館（仮称）建設準備委員会との間に申し合わせを締結し、資料提供も含めた協力をしていただくことになった。

1992年5月19日の大学の創立記念日に国際平和ミュージアムは開館し、翌日の5月20日から一般公開した。

2. 基本構想書

基本構想書の全文は以下のとおりである。

「国際平和ミュージアム」基本構想書

1. 設立の趣旨

今日、人々のなかで戦争体験の記憶がうすれてきて

います。一方核戦争の恐れや地域紛争など、人類の平和に生きる権利をおびやかす深刻な問題がうまれていきます。過去の歴史に学びながら現在の状況を科学的にとらえ、未来にむけての平和への道筋を明らかにすることが必要となっています。

今日まで、全国各地で平和を願い戦争体験を語り継ぐ、様々な努力が積み重ねられてきています。京都においても過去9年間にわたって多くの人々によって「平和のための京都の戦争展」が開催され、大きな成果を収めています。こうした中で、常設の博物館建設を求める動きも京都をはじめ全国で生まれてきました。

立命館大学は、故末川総長をはじめとする多くの人々の手によって、戦没学生を記念する“わだつみ像”を建立し、「再びペンを銃にかえない」決意を宣言しました。その後、40年近くにわたって“わだつみ像”は、立命館大学の「平和と民主主義」の教育理念のシンボルとなってきました。

「国際平和ミュージアム」は、立命館大学の平和研究・教育の蓄積に支えられ、戦争体験を語り継ぐ運動にこめられた国民的な願いに応えてつくられる博物館です。

立命館大学がめざす「国際平和ミュージアム」の特徴は、

第1は、国際性と現代性です。アジア地域を中心に世界の平和問題を考える資料を展示します。

第2は、過去の戦争の実相を伝えることです。日本の15年戦争は何だったのかを反戦・平和の立場から明らかにします。

第3は、立命館大学における平和研究・教育を発展させます。大学の博物館として積極的に問題提起をしていきます。

第4は、多くの市民の参加と協力に支えられ、社会に開かれ、地域に根ざした博物館とします。

2. 基本方針

過去の戦争の実態について、日本にとどまらず広く

アジア諸国民の歴史と運命を根底に位置づけ、トータルに事実に基づいて正確に伝えるとともに、戦争に反対しこれを阻止する運動や諸条件の成長を正確に描き出します。また現代の戦争と平和に関わる問題を科学的に提起し、平和憲法の理念を深く考えるものとし、こうした目的から以下の役割・機能をはたしていくものとします。

1) 国連軍縮研究所など世界的な平和研究ネットワーク、全国の関連施設とのネットワークをつくりあげます。

2) 地域住民や小・中・高生の平和学習、また大学における平和教育・学習に役立てる内容とします。

3) 科学的研究にささえられたものとします。この研究活動は国際地域研究所など本学研究機関の協力をあおぐばかりでなく、ひろく平和研究をすすめている全国および国際的な研究者・機関の参加しうるものとします。

4) 専門研究者にかぎらず、この事業に賛同する多くの市民、団体の自発的な協力を得て、これら学外の人々にもささえられるものとします。

5) わだつみ像をその象徴として戦争被害への追悼、アジアへの加害の反省、平和祈念の場としていきます。

3. 事業計画

1) 資料収集、保管事業

散逸し、失われる恐れもでている資料を発掘・調査し収集します。積極的な資料提供を受けるために施設として公共性をもち、永久保存に耐えられる収蔵設備を建設します。資料収集はその範囲をあまり限定せず、系統的に集めていきます。「平和のための京都の戦争展」の10年間にわたる活動の成果は、その貴重な出発点です。また埋もれた資料に関する情報を集中し、広く海外のネットワークを利用した資料の収集にも努力します。

2) 展示・学習啓発事業

実物展示のみならず、復元、模型、写真パネル、映像、絵画、音声、図解、解説など多様な手段を使って、立体的に組み立てます。小学生から社会人まで予想される参観者は多様です。したがって展示内容、解説に関しては、いくつかの段階を想定し、それぞれの段階に応じて興味のもてるよう配慮していきます。展示は大きくわけて常設展示・企画展示とします。

常設展示に関しては、第1テーマとして、「15年戦争の様相・実態・惨禍」をとりあげ、第2テーマとし

て、第1次世界大戦以後の「戦争違法化への努力」をとりあげ、第3テーマは「現代における戦争の脅威と平和への努力」とします。また特定のテーマでの展示を企画展示として実施し、多目的ホールを利用して、講演・映画会など多様なとりくみをおこないます。

3) 調査研究事業

平和問題をグローバルにとらえ、科学的な調査に基づく展示内容、展示企画を保障するため、多くの研究者の協力をもとめていきます。日本近・現代史研究者を軸に、アジア近・現代、ファシズム、教育、庶民生活、婦人、子供など、多様な研究課題を組織して、研究を進め、同時に国際地域研究所における「平和研究」と協同して、広く現代から未来にかけての平和の問題を解明する体制をつくりだします。

4. 施設計画

「国際平和ミュージアム」

展示室 1,000m²

収蔵室・作業室 250m²

(以下はセミナーハウスと共用)

多目的ホール 400m²

ラウンジ、ギャラリー、パーラー

5. 機構と運営体制

1) 運営機関として常任理事会のもとに運営委員会をおきます。運営委員は常任理事会構成員から若干名、教学部長、館長、事務責任者、教員若干名で構成します。

2) 管理運営は常任理事会のもとに次の体制で行います。

館長

事務責任者

職員(学芸員)

職員(その他)

3) 立命館大学の附属施設として設置しますが、大学を超えた多くの人々に開放される性格をもつことから、学外の学識経験者の参加、協力を得られる体制をとっていくこととします。

4) 運営委員会のもとに、事業計画を立案する企画委員会を置きます。大学を超えた多くの人々に開放される性格にふさわしく、企画・資料収集・運営について広く意見を徴し、学内のみならず学外の学識経験者に

も協力を依頼します。

6. 国際平和ミュージアム（仮称）展示ストーリー（テーマとねらい）

〔テーマ1〕15年戦争の様相・実態・惨禍

1) 導入

〔ねらい〕今なお残る15年戦争・第2次世界大戦の傷跡を示し、世界がまだこの戦争にこだわっていることを明確にする。

2) 15年戦争の概観

3) 軍隊と兵士

〔ねらい〕昭和期の軍隊制度を概観した上で、将校との対比・格差を明らかにしつつ、兵士の軍隊内における人権無視・人命軽視のあり方を明確にする。

(1) 軍隊

①徴兵制度

②入営から満期除隊まで

③入営前の教育

④将校の養成

⑤在郷軍人会—機関誌・名簿など

(2) 15年戦争

⑥戦場と兵士（京都師団を中心に）

⑦俘虜・抑留・引揚

4) 国民総動員体制

〔ねらい〕総力戦体制の形成を、民衆の生活実態から明らかにする。

(1) 国民のくらし

〔ねらい〕国民生活の実態を、地域、消費、生産・労働の3部面から明らかにする。

①地域支配—部落会・町内会・隣組

②戦時下の消費生活

③軍需生産

(2) 諸階層

〔ねらい〕性・年齢の階層別に戦争動員のあり方を示す。その際教育を中心とする。

④婦人

⑤子供

⑥青年・学生

(3) 思想動員

〔ねらい〕国民の思想統制と、マスメディアや宗教を通じた戦争宣伝の実態を示す。

⑦思想弾圧

⑧マスメディア

統制・弾圧と戦争協力

⑨宗教

統制・弾圧と国策協力

5) 日本人の反戦運動

〔ねらい〕日本における反戦運動の伝統を明らかにする。

(1) 反戦

(2) 厭戦

6) 戦争と占領地・植民地

〔ねらい〕日本の占領地支配の実態・戦争犯罪を、アジア諸民族の視点から描き、それに対する諸民族の抗日運動も明らかにする。

(1) 占領地

〔ねらい〕地域区分を軸に支配の実態を明らかにする。

①満州

〔ねらい〕日本の他民族支配のあり方としては特異なかいらい国家「満州国」の実態を軍事警察の支配・政治思想的支配・経済的支配の各側面から描く。

②中国

占領支配・かいらい政権

戦争犯罪

③東南アジア

大東亜共栄圏

地域別

ベトナム・インドシナ

フィリピン

シンガポール・マレイ

インドネシア

ビルマ

インド

タイ

(2) 植民地

〔ねらい〕15年戦争以前から植民地とされていた地域での戦争動員体制の形成をみる。

①朝鮮

②台湾

(3) 抗日運動

〔ねらい〕日本の占領地・植民地全域に抗日運動が展開したことを示す。

①満州

②中国

③朝鮮・韓国

④台湾

⑤東南アジア

ベトナム・インドシナ

フィリピン

シンガポール・マレイ

インドネシア

7) 第 2 次世界大戦

〔ねらい〕 第 2 次世界大戦中におけるアジア以外のファシズム支配の惨禍と、反ファシズム運動の代表的事例を示すことを通じて、15 年戦争がその一環であったことを確認する。

8) 現代戦争の起点—空襲・沖縄戦・原爆

〔ねらい〕 前線と銃後の区別なく、全住民を戦禍の渦に巻き込む現代戦争の恐ろしさ・悲惨さを示す。

- (1) 空襲
- (2) 沖縄戦
- (3) 原爆

〔テーマ 2〕 戦争違法化への努力

1) 国際連盟下での平和への努力

〔ねらい〕 第 1 次世界大戦以降、国際連盟や軍縮条約など、国際的平和の努力がなされたが、第 2 次世界大戦を防ぐことができなかったことを示す。

- (1) 軍縮会議・不戦条約
- (2) 世界の民衆運動

2) 戦争責任

〔ねらい〕 第 2 次世界大戦を防ぐことができなかった反省に基づいて、第 2 次世界大戦後平和に対する罪が国際法上確立する。しかし、いまなお戦争による回復しがたい被害に苦しんでいる人たちは多く、その問題の解決を求めることが、平和への第 1 歩となることを明らかにする。

- (1) 戦争犯罪裁判
- (2) 未決の戦争責任
 - ① 裁判で問題になったもの
 - 原爆被害者
 - 民間人空襲被害者
 - シベリア俘虜
 - 台湾人「皇軍兵士」
 - 中国人強制連行
 - ② 対日請求
 - 韓国被爆者補償
 - サハリン残留朝鮮人
 - ③ アメリカ・カナダにおける日系人強制収容の謝罪と補償

〔テーマ 3〕 「現代における戦争の脅威と平和への努力」

〔ねらい〕 第 2 次大戦後、世界は東西対立を機軸に

たえず戦争の脅威を孕みつつ、未曾有の大量殺戮手段を肥大化させ、核兵器は人類の未来を脅かしてきた。この危機は、平和を希求する人々の国際的な共同の発展によって克服されなければならないことを明らかにする。

導入〔テーマ 1〕の「8) 現代戦争の起点—空襲・沖縄戦・原爆」を〔テーマ 3〕の導入として位置づける。

1) 現代における戦争の惨禍

〔ねらい〕 第 2 次大戦後起こった戦争を概観し、その典型としてベトナム戦争を取り上げ、この戦争が核兵器以外の最先端兵器がすべて使用されたジェノサイドであったことを示し、圧倒的な軍勢力を誇る超大国アメリカが、ベトナムというアジアの小国に敗北した意味を明らかにし、この戦争を終結させる過程で発揮された平和勢力の力は、平和を創造する未来の方向に示唆を与えるものであることを明確にする。

(1) 第 2 次大戦後起こった戦争の概観

(2) ベトナム戦争

- ① ベトナム戦争の勃発
- ② ベトナム戦争の軍事的特色
- ③ 枯葉剤の使用
- ④ ベトちゃん、ドクちゃん
- ⑤ ベトナム戦争と反戦運動
- ⑥ ベトナム戦争を終わらせたもの
- ⑦ ベトナム戦争の後遺

2) 核軍備競争のエスカレーション

〔ねらい〕 核軍備の歴史的变化を示し、核軍拡をもたらした東西冷戦構造の誕生と展開、軍事同盟の対立なども明らかにする。その中でビキニの核実験被害など核兵器の危険性も明確にする。また「核抑止力」が誤りであることも示す。

(1) 核軍備競争の歴史的展開

- (2) ビキニの核実験被害
- (3) アトミック・ソルジャー
- (4) 核兵器の使用が検討された事件
- (5) 核兵器システムの事故
- (6) 「核抑止力」論批判
- (7) S D I
- (8) 核戦争被害の未来予測

3) 軍縮の動き

- (1) 日本国憲法・非核 3 原則・武器輸出 3 原則など
- (2) 国連関係

- (3) 軍縮交渉の歩み
- (4) 世界の非核化の動き
- (5) 非同盟運動
- (6) 平和運動の歩み
- (7) 平和研究
- (8) 平和教育
- 4) 未来の平和を創る
 - [ねらい] ミュージアムの最終版に位置する部分で、戦争阻止と平和のためにやる気を起こさせるようにそれとなく動機づける。
 - (1) 飢餓と軍拡の同居
 - (2) 平和を求めて高まる世界の人々の声

壺井由紀	1995年4月1日～1995年12月31日
和田真	1998年11月1日～
●契約職員	
渡辺久栄	1992年4月1日～1999年3月31日
壺井由紀	1992年4月1日～1995年3月31日
中村由紀子	1995年4月1日～1999年3月31日
加戸綾乃	1995年7月1日～1998年3月31日
湯浅麻紀子	1997年4月1日～2000年3月31日
今河雅子	1998年7月1日～2000年3月31日
加戸綾乃	1998年11月1日～
斉藤里美	1999年4月1日～
斎藤祐子	1999年4月1日～2000年3月31日

以上

II 管理・運営概要

1. 組織

1992年4月1日に国際平和ミュージアムの機構が発足した。1998年4月1日に立命館大学国際平和センターが設置され、国際平和ミュージアムはその1セクターとなった。

●館長

加藤周一 1992年4月1日～1995年3月31日
安斎育郎 1995年4月1日～

●館長代理

安斎育郎 1992年4月1日～1995年3月31日

●企画局長

薬師寺公夫 1992年4月1日～1994年3月31日
林堅太郎 1994年4月1日～1996年3月31日
藤岡惇 1996年4月1日～1998年3月31日
宇野木洋 1998年4月1日～1999年3月31日
兵藤友博 1999年4月1日～

事務機構上では、総合教育事業推進室が1992年4月1日から1993年10月31日まで管轄し、その後1993年11月1日からは教育文化事業課が管轄している。

●課長

田中栄治 1992年4月1日～1993年10月31日
広末良子 1993年11月1日～2000年3月31日

●課長補佐

相賀啓司 1993年11月1日～1997年11月30日
若井勉 1997年11月1日～1998年11月30日

●職員

宮崎智恵子 1992年4月1日～1993年10月31日
山辺昌彦 1992年4月1日～

2. 施設

地下一階

常設展示室	751.40m ²
準備作業室	175.79m ²
収蔵庫	92.56m ²

一階

多目的ホール	327.60m ²
事務室	90.95m ²
ラウンジ	387.85m ²

二階

館長室	33.62m ²
会議室	313.57m ²

3. 運営委員会

1992年度

第1回 1992年12月14日
第2回 1993年3月17日

1993年度

第1回 1993年6月17日
第2回 1994年3月23日

1994年度

第1回 1994年10月5日
第2回 1995年3月17日

1995年度

第1回 1995年9月27日
第2回 1996年3月19日

1996年度

第1回 1996年9月25日
第2回 1997年4月9日

1997年度

第1回 1997年10月9日

第2回 1998年3月26日

運営委員名簿

1992年度

大南正瑛 総長
芦田文夫 副総長
川本八郎 専務理事
加藤周一 館長
安斎育郎 館長代理
吉田幸彦 総務担当常務理事
大河純夫 教学部長
松岡正美 学生部長
小畑力人 総務部長
薬師寺公夫 企画局長
雀部晶 企画委員
岡田英樹 企画委員

1993年度

大南正瑛 総長
芦田文夫 副総長
川本八郎 専務理事
加藤周一 館長
安斎育郎 館長代理
吉田幸彦 総務担当常務理事
安藤次男 教学部長
上野俊樹 学生部長
小畑力人 総務部長
薬師寺公夫 企画局長
雀部晶 企画委員
岡田英樹 企画委員

1994年度

大南正瑛 総長
坂本和一 副総長
川本八郎 専務理事
加藤周一 館長
安斎育郎 館長代理
安藤次男 教学部長
上野俊樹 学生部長
小畑力人 総務部長
林堅太郎 企画局長
雀部晶 企画委員
岡田英樹 企画委員

1995年度

大南正瑛 総長
坂本和一 副総長

川本八郎 専務理事
安斎育郎 館長
慈道裕治 教学部長
佐々木嬉代三 学生部長
林堅太郎 企画局長
雀部晶 企画委員(前期)
兵藤友博 企画委員(後期)
奥山修平 企画委員

1996年度

大南正瑛 総長
坂本和一 副総長
川本八郎 理事長
安斎育郎 館長
慈道裕治 教学部長
佐々木嬉代三 学生部長
藤岡惇 企画局長
兵藤友博 企画委員
奥山修平 企画委員

1997年度

大南正瑛 総長
長田豊臣 副総長
甲賀光秀 専務理事
安斎育郎 館長
薬師寺公夫 教学部長
佐々木嬉代三 学生部長
藤岡惇 企画局長
雀部晶 企画委員
中村雅秀 企画委員

4. 企画委員会

1993年度

第1回 1993年4月19日
第2回 1993年7月7日
第3回 1993年10月1日
第4回 1993年11月24日
第5回 1994年2月17日

1994年度

第1回 1994年5月9日
第2回 1994年7月18日
第3回 1994年10月13日
第4回 1994年12月15日
第5回 1995年3月17日

1995年度

第1回 1995年5月25日

第2回 1995年12月20日

1996年度

第1回 1996年4月23日

第2回 1996年7月24日

第3回 1996年11月15日

第4回 1997年3月18日

1997年度

第1回 1997年4月25日

第2回 1997年10月7日

第3回 1997年11月27日

第4回 1998年3月24日

企画委員名簿

1993年度

松岡正美 法学部

野口メアリー 法学部

藤岡惇 経済学部

雀部晶 経営学部

中川順子 産業社会学部

奥山修平 国際関係学部

岡田英樹 文学部

中川成美 文学部

遠藤彰 理工学部

井口和起 京都府立大学

吉田保 関西文理学院

佐々木浩二 職員課

石坂和幸 国際関係学部事務室

1994年度

松岡正美 法学部

薬師寺公夫 法学部

野口メアリー 法学部

藤岡惇 経済学部

雀部晶 経営学部

中川順子 産業社会学部

奥山修平 国際関係学部

岡田英樹 文学部

遠藤彰 理工学部

井口和起 京都府立大学

吉田保 関西文理学院

佐々木浩二 理工学部拡充

石坂和幸 国際関係学部事務室

1995年度

松岡正美 法学部

野口メアリー 法学部

藤岡惇 経済学部

雀部晶 経営学部（前期）

兵藤友博 経営学部（後期）

中川順子 産業社会学部

奥山修平 国際関係学部

中川成美 文学部

山崎有恒 文学部

遠藤彰 理工学部

井口和起 京都府立大学

吉田保 関西文理学院

佐々木浩二 理工学部拡充

1996年度

松岡正美 法学部

薬師寺公夫 法学部

金丸裕一 経済学部

兵藤友博 経営学部

和田武 産業社会学部

奥山修平 国際関係学部

中川成美 文学部

山崎有恒 文学部

遠藤彰 理工学部

井口和起 京都府立大学

吉田保 関西文理学院

吉崎誠 教育システム課

佐々木浩二 教職員組合専従書記次長

1997年度

松岡正美 法学部

豊下楯彦 法学部

金丸裕一 経済学部

雀部晶 経営学部

川口晋一 産業社会学部

中村雅秀 国際関係学部

中川成美 文学部

山崎有恒 文学部

遠藤彰 理工学部

井口和起 京都府立大学

吉田保 関西文理学院

吉崎誠 教育システム課

佐々木浩二 教職員組合専従書記次長

5. 企画運営委員会

1998年度

第1回 1998年5月28日

第2回 1998年10月8日

第3回 1998年12月17日

第4回 1999年3月3日

1999年度

- 第1回 1999年4月21日
- 第2回 1999年6月16日
- 第3回 1999年10月27日
- 第4回 2000年3月8日

企画運営委員名簿

1998年度

- 赤沢史朗 法学部 (12月17日より)
- 藤岡惇 経済学部
- 雀部晶 経営学部
- 川口晋一 産業社会学部
- 中村雅秀 国際関係学部
- 高橋文利 政策科学部
- 山崎有恒 文学部
- 竹山博英 文学部
- 遠藤彰 理工学部
- 松岡正美 特任教授
- 井口和起 京都府立大学
- 吉田保 関西文理学院
- 吉崎誠 教育システム課 (12月31日まで)
- 佐々木浩二 財務課

1999年度

- 赤沢史朗 法学部
- 宇野木洋 法学部
- 藤岡惇 経済学部
- 渡辺峻 経営学部 (前期)
- 向寿一 経営学部 (後期)
- 文楚雄 産業社会学部
- 佐藤誠 国際関係学部
- 高橋文利 政策科学部 (前期)
- 安江則子 政策科学部 (後期)
- 山崎有恒 文学部
- 竹山博英 文学部
- 遠藤彰 理工学部
- 松岡正美 特任教授
- 井口和起 京都府立大学
- 吉田保 関西文理学院
- 小畑力人 教育研究事業部長
- 佐々木浩二 広報課

Ⅲ 事業概要

1. 資料収集・保管

① 寄贈・寄託・保管

博物館資料を、館藏品と寄託とのそれぞれについて、物資料・文書資料・図書に分け、常設展示テーマにそった分類番号を付し、出所先ごとに整理し、収納している。

1995年受入分まで整理ができ、目録を刊行している。それ以降は仮目録ができている。資料整理は通常は館員がおこなっているが、大量な時は、平和友の会の協力を得ている。

② 燻蒸

1994年度から、夏期休館中に、収蔵資料を包み込み方式で、エキボンガスを注入し、24時間の燻蒸をおこなっている。1994年度・1995年度・1996年度は8月13～15日に、1997年度は8月20～22日に、1998年度は8月17～19日に、1999年度は、8月14～16日に、それぞれ実施した。

2. 展示

① 常設展の参観者

開館当初は無料入館であったが、1993年11月2日から有料化し、見学資料費を徴収している。

入館者数は次表の通りである。

年度	個人	団体	全体
1992	13115	12562	25677
1993	12185	29358	41543
1994	8509	24343	32852
1995	11026	29646	40672
1996	5656	25859	31515
1997	7683	24274	32157
1998	8303	19454	27757
1999	12447	18583	31030

② 常設展の更新

1995年に、展示の詳細解説が退色したので、やり

かえた。あわせて訂正補充をおこなった。

1998年より沖縄戦関係資料を「沖縄県立平和祈念資料館」から借用して展示している。1999年には戦没画学生のコーナーを設置し、「無言館」から戦没画学生の遺作・遺品を借用し、展示している。このように、展示資料の変更をおこなうとともに、映像・音声関係装置の更新もしている。

1998年より、ミュージアム内部に、常設展のリニューアルを中心課題とする、国際平和ミュージアム高度化検討委員会をもうけ、討議をおこなっている。

③特別展等の開催

特別展等の開催状況は以下の通りである。

1992年度

●立命館大学国際平和ミュージアム開館記念特別展：

ピカソと平和ポスター展

i. 展示会

会期：1992年5月21日（木）～6月20日（土）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

協力：池田20世紀美術館
総合美術研究所

参観者：3015人

ii. リーフレット作成

●国連軍縮週間記念特別展：国連市民一平和を求めて

i. 展示会

会期：1992年10月24日（土）～30日（金）

会場：国際平和ミュージアム・常設展示場入口

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

後援：日本国際連合協会京都本部

協力：原水爆禁止日本協議会

日本青年団協議会

日本科学者会議

森下一徹

参観者：700人

ii. 講演会「核兵器不拡散のための国際協力」

日：1992年10月24日（土）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

講師：遠藤哲也（特命全権大使）

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

後援：日本国際連合協会京都本部

協賛：立命館大学国際地域研究所平和軍縮研究会

参加者：200人

iii. 国際シンポジウム「アジア太平洋地域の将来を考 える—日本・アメリカ合衆国・ロシア連邦の相互 協力」

日：1992年11月5日（木）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際関係学部

立命館大学国際平和ミュージアム

参加者：200人

●特別展：人間の価値—1918年から1945年のドイツ と日本の医学

i. 展示会

会期：1993年1月9日（土）～2月8日（月）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：ドイツ連邦医師会

ベルリン医師会

京都ドイツ文化センター

立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：2601人

ii. シンポジウム「1945年以前の日本とドイツの医 学」

日：1993年1月16日（土）

会場：立命館大学明学館96号

問題提起：

イングリット・ケスター「1918年から1945年のドイツにお
ける薬物毒性学の研究」

常石敬一「軍事医学と医学アカデミズム」

クリスティアン・プロス「第三帝国の医師たち—科学のい
さま師か、それとも先駆者か」

芝田進午「『悪魔の飽食』の加害責任と戦後責任」

主催：京都ドイツ文化センター

立命館大学国際平和ミュージアム

参加者：150人

1993年度

●特別展：日本の収容所にいたオランダ人—1941年 から1945年の収容所生活・絵画展

i. 展示会

会期：1993年7月1日（木）～15日（木）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：バーク教育博物館

EKMJ (オランダ元戦争捕虜団体)

立命館大学国際平和ミュージアム

後援: オランダ総領事館

関西日蘭協会

京都市

京都市教育委員会

京都市国際交流協会

参観者: 739人

ii. 刊行物

解説書

解説文・写真を収録

●'93平和のための京都の戦争展

特別展: 平和で切り拓く21世紀のアジアと日本一日

清・日露戦争から学ぶこと

i. 展示会

会期: 1993年7月26日(金)～8月12日(木)

会場: 国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催: 平和のための京都の戦争展実行委員会

立命館大学国際平和ミュージアム

後援: 京都新聞社

朝日新聞社

毎日新聞社

共同通信社

KBS京都

NHK京都

京都府保険医協会

京都私立病院協会

核戦争防止・核兵器の廃絶をめざす京都医師の
会

神九図の会

参観者: 8751人

●学徒出陣50年・わだつみ像建立40周年特別展: 戦争、大学そして学生

i. 展示会

会期: 1993年11月26日(金)～12月16日(木)

会場: 国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催: 立命館大学

参観者: 2789人

ii. 講演会

日: 1993年12月9日(木)

会場: 立命館大学末川記念会館ホール

講師: 加藤周一(国際平和ミュージアム館長)

『『学徒出陣』50年と日本の現状』

参加者: 200人

iii. 刊行物

解説書

解説文・図表を収録

1994年度

●特別展: 戦争と子どもたち

i. 展示会

会期: 1994年7月22日(金)～8月10日(水)

会場: 国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催: 立命館大学国際平和ミュージアム

後援: 京都市教育委員会

日本ユニセフ協会

参観者: 6916人

ii. 講演会とシンポジウム「学童疎開を考える」

日: 1994年8月6日(土)

会場: 立命館大学末川記念会館ホール

講師: 山辺昌彦(立命館大学国際平和ミュージアム学
芸員)

「学童疎開とは何だったのか」

問題提起: 青木哲夫(豊島区立郷土資料館学芸員)

赤塚康雄(天理大学教授)

参加者: 200人

iii. 刊行物

解説書

解説文・図表を収録

●平和と長寿をねがう「中野信夫絵画展」

会期: 1994年9月20日(火)～25日(日)

会場: 国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催: 立命館大学

●特別展: 731部隊展・京都

i. 展示会

会期: 1994年9月28日(水)～10月11日(火)

会場: 国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催: 731部隊展全国実行委員会

立命館大学国際平和ミュージアム

参観者: 3031人

ii. オープニング・フォーラム

日：1994年9月28日（水）

会場：国際平和ミュージアム・ラウンジ

証言：小笠原明・田部伴之助（共に731部隊関係者）

参観者：4568人

iii. 講演会

日：1994年10月4日（水）

会場：立命館大学末川記念会館ホール

講師：安斎育郎（国際平和ミュージアム館長代理）

「科学と人体実験—731部隊展によせて」

参加者：180人

●早崎治遺作展「早崎治の世界」—広告写真界の巨匠、
母校に還る

会期：1994年11月1日（火）～11日（金）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：学校法人立命館

ii. 刊行物

解説書

解説文を収録

●立命館大学戦後50年平和企画特別展：原爆開発と
投下への道—マンハッタン・プロジェクト

i. 展示会

会期：1995年6月24日（土）～7月8日（土）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：2594人

ii. 刊行物

解説書

解説文・写真を収録

●特別展：戦争と文学—与謝野晶子とその時代

i. 展示会

会期：1994年11月26日（土）～12月11日（日）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

後援：京都市教育委員会

参観者：2021人

●立命館大学戦後50年平和企画特別展：沖縄戦

i. 展示会

会期：1995年7月20日（木）～29日（土）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：沖縄県

京都新聞社

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：京都府

京都市教育委員会

参観者：1519人

ii. 講演会

日：1994年12月8日（木）

会場：立命館大学末川記念会館ホール

講師：上田博（立命館大学文学部教授）

「与謝野晶子の〈夢〉を見る」

木村一信（立命館大学文学部教授）

「昭和期・日本の文学者たち」

参加者：216人

ii. 沖縄戦体験者・研究者によるオープニング・シ
ンポジウム

日：1995年7月20日（木）

会場：国際平和ミュージアム・ラウンジ

問題提起：木坂順一郎（竜谷大学教授）

石原昌家（沖縄国際大学教授）

宮城喜久子（元ひめゆり学徒隊員）

iii. 刊行物

解説書

解説文・写真を収録

●立命館大学戦後50年平和企画特別展：世界報道写
真展 [1995年次展/1956 - 94回顧展]

i. 展示会

会期：1995年9月21日（火）～10月1日（日）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真オランダ財団

立命館大学国際平和ミュージアム

1995年度

●立命館大学戦後50年平和企画特別展：戦争と教育

i. 展示会

会期：1995年5月25日（木）～6月20日（火）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

協賛：キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社

イーストマン・コダック社

KLMオランダ航空

参観者：5094人

●立命館大学戦後50年平和企画特別展：戦時下日本の報道写真—梅本忠男と『写真週報』

i. 展示会

会期：1995年11月10日（金）～23日（祝）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：2008人

ii. 刊行物

図録

1996年度

●特別展：中村梧郎写真展 戦場の枯葉剤—ベトナム・アメリカ・韓国

i. 展示会

会期：1996年5月9日（木）～29日（水）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

協賛：コニカプラザ

参観者：5991人

ii. 中村梧郎のスライド&トーク

日：1996年5月9日（木）

会場：立命館大学末川記念会館ホール

講師：中村梧郎（写真家）

参加者：220人

iii. 刊行物

感想文集

●特別展：世界報道写真展 1996年次展

i. 展示会

会期：1996年10月5日（土）～15日（火）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真オランダ財団

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

協賛：キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社

イーストマン・コダック社

KLMオランダ航空

参観者：4063人

ii. 刊行物

感想文集

●特別展：放射能発見100年・核実験

i. 展示会

会期：1996年11月15日（金）～12月8日（日）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：2834人

ii. 記念講演会

日：1996年11月20日（水）

会場：立命館大学以学館4号教室

講師：安斎育郎（国際平和ミュージアム館長）のスライド&トーク

「放射能発見100年に想う」

飯塚利弘（元焼津市立中学校教員）の講演

「ビキニ水爆による第五福竜丸被災事件の意味するもの」

参加者：170人

iii. 刊行物

図録

写真・解説パネルを収録

感想文集

1997年度

●特別展：憲法施行50年記念特別展 憲法・平和・未来

i. 展示会

会期：1997年4月25日（金）～6月12日（木）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：6306人

ii. 記念講演会

第1回

日：1997年5月28日（水）

会場：立命館大学以学館1号教室

講師：弓削達（元フェリス女学院大学学長・東京大学
名誉教授）

「憲法九条は国際政治に無力か」

参加者：500人

第2回

日：1997年6月4日（水）

会場：立命館大学末川記念会館ホール

講師：鈴木昭典（ドキュメンタリー工房代表取締役）

「世界の憲法における戦争放棄の系譜」

参加者：240人

iii. 刊行物

図録

写真・図表・解説パネルを収録

感想文集

●特別展：世界報道写真展 1997年次展

i. 展示会

会期：1997年10月2日（木）～19日（日）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真オランダ財団

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

協賛：キャノン株式会社

キャノン販売株式会社

イーストマン・コダック社

KLMオランダ航空

参観者：6136人

ii. 刊行物

感想文集

受付アルバイト回覧日誌

●特別展：毒ガス展in京都

i. 展示会

会期：1997年11月20日（木）～12月10日（水）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：毒ガス展実行委員会

立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：2525人

ii. 記念講演会

第1回

日：1997年11月26日（水）

会場：立命館大学以学館2号教室

講師：村上初一（毒ガス歴史研究所所長・大久野島毒
ガス資料館前館長）

「毒ガス製造の体験」

参加者：298人

第2回

日：1997年12月6日（土）

会場：国際平和ミュージアム209号会議室

講師：吉見義明（中央大学教授）

「日本軍の毒ガス戦と現代」

参加者：95人

iii. 刊行物

感想文集

1998年度

●特別展：青い麦のようになくましくー「はだしのゲ ン」原画展

i. 展示会

会期：1998年5月14日（木）～6月10日（水）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

協力：中沢啓治・広島平和記念資料館

参観者：6216人

ii. 記念講演会

日：1998年5月20日（水）

会場：立命館大学以学館1号教室

講師：ヨシトミヤスオ（漫画家・京都精華大学教授）

小西悟（東京都立大学名誉教授・被爆者団体協

議会事務局次長）

参加者：150人

iii. 刊行物

感想文集

●特別展：「無言館」開館記念 戦没画学生「祈りの 絵」展

i. 展示会

会期：1998年7月1日（水）～17日（金）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：戦没画学生慰霊美術館「無言館」

立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：1916人

ii. 記念公開対談「無言館のこと」

日：1998年7月8日（水）

会場：立命館大学末川記念会館ホール

対談者：窪島誠一郎（無言館館主）

安斎育郎（国際平和ミュージアム館長）

参加者：150人

iii. 刊行物

感想文集

●特別展：世界報道写真展 1998年次展

i. 展示会

会期：1998年10月1日（木）～18日（日）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真オランダ財団

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

協賛：キャノン株式会社

キャノン販売株式会社

イーストマン・コダック社

KLMオランダ航空

参観者：5814人

ii. 刊行物

感想文集

●特別展：日本の平和博物館展

i. 展示会

会期：1998年10月29日（木）～11月18日（水）

会場：国際平和ミュージアム・ラウンジ

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：3822人

ii. 刊行物

解説書

解説文を収録

1999年度

●特別展：メリーランド大学所蔵「プランゲ文庫」展

i. 展示会

会期：1999年5月20日（木）～6月10日（木）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：メリーランド大学

早稲田大学

社団法人日本図書館協会

株式会社ニチマイ

立命館大学

参観者：5003人

ii. 記念シンポジウム「占領と出版・文化」

日：1999年5月30日（日）

会場：立命館大学末川記念会館ホール

報告者：荒敬（長野県短期大学）

西川長夫（立命館大学国際関係学部）

鶴見俊輔（哲学者・評論家）

参加者：200人

iii. 刊行物

展示資料目録

解説文と資料の説明文も収録

感想文集

iv. 「プランゲ文庫」展報告書刊行

『占領期の言論・出版と文化—（プランゲ文庫）展・シンポジウムの記録』を早稲田大学と共同編集により、2000年8月18日に発行。

●特別展：世界報道写真展 1999年次展

i. 展示会

会期：1999年9月30日（木）～10月17日（日）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真オランダ財団

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

協賛：キャノン株式会社

キャノン販売株式会社

イーストマン・コダック社

KLMオランダ航空

参観者：6002人

ii. 刊行物

感想文集

●特別展：科学者レオナルド・ダ・ヴィンチ展

i. 展示会（びわこ・くさつキャンパス）

会期：1999年10月1日（金）～24日（日）

会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス ユニオンスクエアホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

後援：国立科学博物館
大津市教育委員会
草津市教育委員会

参観者：4210人

ii. 記念講演会

日：1999年10月4日（月）

会場：びわこ・くさつキャンパス プリズムホール

講演者：大南正瑛（立命館前総長）

「文理融合の先駆者レオナルド・ダ・ヴィンチーレオナルドのものの見方・考え方を探る」

参加者：900人

iii. 展示会（立命館大学国際平和ミュージアム）

会期：1999年11月5日（金）～23日（火）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

後援：国立科学博物館
京都市教育委員会

協力：京都市青少年科学センター

参観者：3560人

iv. 記念公開対談「レオナルドの科学VS.ノストラダムスの大予言」

日：1999年11月18日（木）

会場：立命館大学存心館802号教室

対談者：雀部晶（立命館大学経営学部教授）
安斎育郎（国際平和ミュージアム館長）

参加者：200人

v. 刊行物

感想文集

3. 教育・普及活動

①講演会・シンポジウムなど

講演会・シンポジウムなどは特別展に関連して開くことが多いが、単独で開催したものもある。

●開館記念世界平和フォーラム

日：1992年5月19日

会場：立命館大学第1体育館

参加者：2000人

●世界大学生平和サミット

戦後50年にちなみ、立命館大学国際平和ミュージアムを事務局に開催され、総会・分科会での討議を経て声明を採択。

日：1995年12月4～6日

会場：立命館大学国際平和ミュージアム他

参加：36か国・地域、101大学、500名

●シンポジウム「反戦文学運動『クラルテ』の日本と『朝鮮』における展開—アンリ・パルビュス、小牧近江、金基鎮の今日的評価」

日：1996年11月9日・10日

会場：立命館大学国際平和ミュージアム209会議室

成果をまとめ、御茶の水書房から2000年4月20日に、安斎育郎・李修京編『クラルテ運動と「種時く人」—反戦文学運動『クラルテ』の日本と朝鮮での展開』を刊行。

●講演会「戦争を語り伝える—歴史博物館の可能性」

主催：関西ドイツ文化センター

立命館大学国際平和ミュージアム

日：1996年11月16日

会場：立命館大学アカデミア立命21、207会議室

講師：ローズマリ・ハイヤー・ホーン（ドイツ歴史博物館学芸員）

講演と質疑内容を『立命館平和研究』第1号に掲載。

②講座

●シニアのための平和講座

日：1995年6月10・17・24日、7月1日

講師：安斎育郎国際平和ミュージアム館長

参加者：11名

③映写会

●冬休み子どもアニメ映画大会

日：1992年12月19・20日

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

●春休み子どもアニメ映画大会

日：1993年3月27日

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

●夏休み子どもアニメ映画大会

日：1993年 8月28日

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

●春休み子どもアニメ映画大会

日：1994年 3月25・26・28・29日

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

3. 25 風の谷のナウシカ

26 対馬丸

28 天空の城ラピュタ

29 魔女の宅急便

④友の会

1993年 5月26日より 9月 8日にかけて、京都生協の主催で、国際平和ミュージアムの協力により、ボランティア養成講座が開かれた。その修了者を中心に、1993年11月26日に平和友の会が結成された。学習会開催を1994年 1月から毎月 1回、会報発行を1994年 2月から毎月 1回、それぞれ定期的におこなっている。ガイド・会報・学習・調査研究・交流などの部会も開いている。このように自主的な団体として独自の活動をおこなうとともに国際平和ミュージアムにも協力していただいている。1994年 1月 8日から、国際平和ミュージアムの見学団体にたいして、希望がある場合はガイドを平和友の会にお願いしている。また、資料整理への協力をしていただいたり、学芸員実習などで、お話をさせていただいたりしている。

⑤学芸員実務実習

学芸員実務実習は、特別展展示プランの作成、資料整理、受付業務などを中心に開館以来毎年受け入れている。

各年度の受け入れ状況と実習生の作成した展示プランは以下のとおりである。

●1992年度 8月24～28日と31日

立命館大学 4名

池川由華 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
貯蓄報国―戦争経済と国民

大西央美 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
唯一の被爆国として

石原明德 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
戦時と学生―学徒出陣

大西知子 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
国民学校の子どもたち―狂気の教育

●1993年度 8月9～14日

立命館大学 5名

東倉有希 立命館大学文学部哲学科心理学専攻
アウシュヴィッツと第二次世界大戦―アンネ・フランクを通して

本多泰幸 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
戦時下の児童文学

村上吉樹 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
大学と学生その自由の剥奪―戦前・戦中の立命館大学
を中心として

原弘 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
プロパガンダ展

水落可奈子 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
聖戦へ向けて―国家総動員体制下の文化

●1994年度 8月8～13日

立命館大学 4名

石川寛 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
日清戦争を考える

田中秀範 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
真珠湾、1941年12月7日と今現在

東田啓一郎 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
戦わざる軍隊―PKOとは？

熊谷晃志 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
アウシュヴィッツの真実

●1995年度 8月7～12日

立命館大学 3名・京都橘女子大学 4名

中野智美 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
東京裁判で何が裁かれたのか

茂木知哉 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
日本の植民地教育

関裕子 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
日本の侵略戦争―南京大虐殺について

大田夏穂 京都橘女子大学文学部歴史学科
従軍慰安婦と少女たちの性

吉村有希 京都橘女子大学文学部歴史学科
戦時下における宗教弾圧

阿部直美 京都橘女子大学文学部歴史学科
ベトナム戦争―現代の戦争の悲惨さ

釜堀里美 京都橘女子大学文学部歴史学科
アウシュヴィッツ強制収容所―戦争犯罪と抵抗運動

●1996年度 第1期 7月29日～8月3日

立命館大学 5名・京都橘女子大学 2名

馬場一男 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻

朝鮮戦争—冷戦構造が生んだ悲劇

藤田佳浩 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
南京大虐殺の真実

小林大輔 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
連合軍捕虜

二村由利子 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
戦争責任・戦後責任—日本とドイツの道

宮崎昭護 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
戦後50年の日米の戦争観

岡部貴子 京都橘女子大学文学部歴史学科
日常生活の崩壊と核被害—広島原爆とチェルノブイリ原発
事故から

野田知珠子 京都橘女子大学文学部歴史学科
15年戦争と戦争画

●1996年度 第2期 8月11～16日

立命館大学7名・京都府立大学1名

新井由有子 立命館大学文学部文学科日本文学専攻
15年戦争下の日本文学—作家たちの従軍

安藤誠 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
ビキニ水爆実験—第5福竜丸を中心とした被爆の実態

高橋典子 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
残された人びと—虚構の国 満州国の崩壊

服部一宏 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
追いつめられた沖縄住民

藤村顕栄 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
教科書のなかの戦争

富永雅史 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
15年戦争史—その政略と戦略

丸山幸子 立命館大学文学部地理学科地理学専攻
民族差別蔑視の歴史と現在—在日コリアンを中心に

福島在行 京都府立大学文学部史学科
京都府下の戦争遺跡

●1996年度 第3期 9月9～14日

立命館大学9名

小里麻由美 立命館大学文学部文学科中国文学専攻
あなたなら—原爆が残していったもの

鷹見知恵美 立命館大学文学部文学科中国文学専攻
香港の3年8ヵ月と戦後補償—知られざる日本の侵略

青木恵 立命館大学文学部文学科英米文学専攻
天皇と神道—戦争への影響

井上和仁 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
日本プロ野球界と戦争—創設から敗戦までを中心に

久保憲司 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻

独ソ戦におけるソ連の被害

村田かおり 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
戦時下の食生活

中村朋子 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
長崎原爆—その実像

小野桂 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
広告から見る戦時下の娯楽

安本有希子 立命館大学文学部地理学科地理学専攻
戦争は命ばかりでなく心も奪った—教育にみる戦争責
任

●1997年度 8月28～30日と9月2～4日

立命館大学6名・京都橘女子大学4名

島地孝浩 立命館大学文学部文学科日本文学専攻
柳田国男と反戦思想

東垣内真一 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
大阪・和歌山・神戸の空襲

岡田もえ 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
迫害の中で—ナチス支配の下で生きる

小林直子 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
真実を見つめる目

下宮範子 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
沈黙の島—大久野島と毒ガス

檜原賢一 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
湾岸戦争とその影響

石川幸枝 京都橘女子大学文学部歴史学科
命どう宝—沖縄住民の戦争

林絵理子 京都橘女子大学文学部歴史学科
戦時の民衆の衣・食・住

中島愛 京都橘女子大学文学部歴史学科
従軍慰安婦—朝鮮植民地化と朝鮮人慰安婦

三宅美紀 京都橘女子大学文学部歴史学科
ヴェトナム戦争の残したのもの

●1998年度 8月5～8日と10・11日

立命館大学9名・京都橘女子大学2名・京都外国語
大学1名・大阪学院大学1名

手塚もも子 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
日本の中国侵略と毒ガス兵器

船津加奈子 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
戦争と女性

吉国弘之 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
現在にも残る核

大石健一 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
戦争と音楽

岡本和也 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
12・9運動—抗日民族統一戦線へ
高橋玲子 立命館大学文学部史学科東洋史学専攻
日本人だけが知らない南京事件
玉井幹人 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
写真でみる「戦場の惨禍」
高野加奈子 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
解放者—ユダヤ人に手をさしのべた人々
曲子波奈 立命館大学文学部地理学科地理学専攻
描かれた戦争—その時代による変化
井上ゆかり 京都橘女子大学文学部歴史学科
戦時下の動物園
江崎三央 京都橘女子大学文学部歴史学科
戦争と映画
坪田伸貴 京都外国語大学外国語学部英米語学科
オーストラリア・オーストラリア軍に対する日本軍の戦争犯罪とオース
トラリア在住日本人の戦時体験
井場民雄 大阪学院大学流通科学部流通科学科
インディアンと呼ばれた人々

●1999年度 8月7～10日と12・13日

立命館大学 5名・京都橘女子大学 3名
インターンシップ 1名

小川奈緒 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
沖縄戦—過去・現在・未来を見つめて
竹迫健作 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
知られざる犠牲者—消えた馬たち
野上章 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
捕虜虐待と戦争責任
渡辺陽美 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
悪魔と呼ばれた731部隊
真部勉 立命館大学文学部科目等履修生
京都発地雷展
足立麻理子 京都橘女子大学文学部歴史学科
ドイツ占領下のフランス
家中貴美子 京都橘女子大学文学部歴史学科
和コースを考える
千村明子 京都橘女子大学文学部歴史学科
'90年代 世界の紛争展
坂井真由美 Northland College Conflict and
Peacemaking専攻
Martin Luther King—非暴力人権闘争の歴史

⑥研修受け入れ

1994年度から始まった国際協力事業団の「博物館

技術コース」の研修に協力している。

1994年度は、1995年1月18日～3月3日の日程でマレーシアのマラッカ文化博物館学芸員カミス・ビン・ハジ・アバス氏の専門研修を受け入れた。課題は、国際平和ミュージアムの常設展示や事業の評価と批判、国際平和ミュージアムの特別展「戦争と教育—日本とマレーシア」の展示シナリオの作成とを中心課題とした。

1995年度は、1995年11月17日に、「テーマ展示のあり方」というテーマのもとに見学研修を受け入れた。内容は、館長の講演と常設展、収蔵庫・作業室などの見学である。

1996年度は、1996年11月29日に「テーマ展示のあり方」というテーマのもとに見学研修を受け入れた。内容は前年と同様である。また専門研修に1997年2月25日から3月7日の日程で、パプア・ニュー・ギニア国立博物館・美術館上級学芸員のジョセフ・ラバ・カイヨー氏とシンガポール政府文化庁の社会教育担当官シャリル・ビン・シャー氏を受け入れ、国際平和ミュージアムの常設展テーマ1についての評価・批判をすることと、それぞれの国の日本との関係をテーマとする国際平和ミュージアムの特別展の企画書の作成を中心課題とした。

1997年度は、1997年10月3日に「テーマ展示のあり方」というテーマのもとに見学研修を受け入れた。内容は例年と同様である。

1998年度は、1998年9月25日に「テーマ展示のあり方」というテーマのもとに見学研修を受け入れた。内容は例年と同様である。

1999年度は、1999年9月17日に「テーマ展示のあり方」というテーマのもとに見学研修を受け入れた。内容は例年と同様である。1999年11月27日には、専門研修として、ペルーのラファエル・ラルコ・エレラ考古博物館の学芸員ロクサーナ氏に「特別展における企画案の作成方法について」というテーマで研修をおこなった。

4. 交流事業

①第3回世界平和博物館会議

世界平和博物館会議は第1回がイギリスのブラッドフォード大学平和学部で、1992年9月10～12日に、第2回がオーストリアのシュタットシュライニングの欧州平和大学で、1995年8月16～20日に、それぞれ開催され、立命館大学国際平和ミュージアムから参加し

ている。第3回世界平和博物館会議は大阪国際センターと立命館大学国際平和ミュージアムの共催により、日本で開催された。

主催：組織委員会（大阪国際センターと立命館大学国際平和ミュージアムで組織）

日：1998年11月6～10日

会場：大阪国際センター・アピオおおさかと立命館大学国際平和ミュージアム

参加者：22か国・地域、252名

報告書を組織委員会が作成。

なおこの会議の日本人参加者により、「平和のための博物館・市民ネットワーク」が結成された。立命館大学国際平和ミュージアムはネットワークのニュース創刊準備号を発行し、以後の事務局を「平和資料館・草の家」に引き継いだ。

②平和博物館会議

日本の平和博物館会議は、埼玉県平和資料館、川崎市平和館、立命館大学国際平和ミュージアム、大阪国際平和センター、広島平和記念資料館、長崎原爆資料館、沖縄県立平和祈念資料館の7館により、1994年に結成された。その後、1995年には高松市市民文化センター平和記念室が、1999年には地球市民かながわプラザが加盟した。年1回持ち回りで、交流会を開き、経験や情報の交換をするとともに、ニュースを発行している。

第6回平和博物館会議は、国際平和ミュージアムが開催館となり、1999年10月13日・14日に国際平和ミュージアムで開催した。

5. 刊行物など

①目録・報告書・図録など

開館時に、簡単な図録にあたる「パンフレット」と「リーフレット」および「資料提供者・協力者芳名録」を作成した。

1993年11月2日のミュージアムの有料化に際し、日本語版ミュージアムガイドを作成した。その後、子どもむけ（1994年）、英語版（1994年）、中国語版（1999年）、ハングル語版（1999年）を作成した。

1997年2月28日に、常設展の写真と解説文と図表を収録した『常設展示詳細解説』を刊行した。

1998年3月25日に、1995年度までに整理した資料の目録、『資料目録 第1集』を刊行した。

独自企画の特別展については、図録または解説パンフレットなどを作成するようにしている。また、1996年以降原則として、特別展の感想文集を内部資料として作成している。

1998年11月6日から10日にかけて、大阪国際平和センターと組織委員会をつくり、第3回世界平和博物館会議を共同開催した。事前に予稿集を作成するとともに、この報告書を組織委員会として、日本語を1999年3月30日に、英文を1999年7月10日にそれぞれ刊行した。

その他、1993年には京都の観光案内のイラストマップを作成した。1994年には、Tシャツ・バンダナ・ハンカチ・レターセット・メモ帳・絵葉書・シールなどのグッズを、1995年には火の鳥のジグソーパズルを製作した。1997年にはPRビデオ「火の鳥と出会う旅」を製作した。1998年にはミュージアム周辺のイラストマップを作成した。

②紀要

『立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要—』第1号を2000年3月25日に刊行した。

内容は以下の通りである。

特集 第3世界平和博物館会議歴史教科書問題ワークショップ報告

深山やよい「アメリカの教科書にみる真珠湾攻撃と原爆投下についての記述の変遷」

高嶋伸欣「日本の教科書制度の問題点」

ヨハネ・ホフマン「ドイツの歴史教科書のパラダイムシフトとその展望」

アケル・シルト「戦後ドイツにおけるナチス的過去の問題」

蔡 錦松「歴史研究者の視覚から見た中国の歴史教育」

荒井信一「現代史教育における戦争責任問題の取り上げ方」

ウラジミール・ボロゾフ「過去との折り合いをどうつけるか」

鄭 在貞「韓国と日本の歴史教科書研究と改善のための提言」

（以上特集）

ローズマリー・バイヤー＝デー・ハン「戦争を語り伝える」

藤岡惇「平和を開発する力を求めて」

中山知華子「国民義勇隊と国民義勇戦闘隊」

山辺昌彦「中国での日本人反戦運動における天皇制認識について」

③だより

『国際平和ミュージアムだより』を刊行し、事業報告、関係者の随想、推薦本・収蔵資料・入館状況の紹介などを掲載している。

刊行状況は以下の通りである。

通巻号数	巻	号	刊行年月日
1	1	1	1993年5月19日
2	1	2	1993年11月1日
3	1	3	1994年3月20日
4	2	1	1995年1月20日
5	3	1	1995年9月10日
6	3	2	1995年12月15日
7	3	3	1996年3月15日
8	4	1	1996年7月16日
9	4	2	1996年12月17日
10	4	3	1997年3月28日
11	5	1	1997年8月10日
12	5	2	1997年12月15日
13	5	3	1998年3月25日
14	6	1	1998年8月25日
15	6	2	1998年12月10日
16	6	3	1999年3月15日
17	7	1	1999年8月24日
18	7	2	1999年12月24日
19	7	3	2000年3月24日

主な記事は以下のようなものである。

●特別展報告

号	回	特別展名
1	1	ピカソと平和ポスター展
1	2	国連と市民
1	3	人間の価値
2	4	日本軍の収容所にいたオランダ人
2	5	平和で切り拓く21世紀のアジアと日本
3	6	戦争、大学そして学生
4	7	戦争と子どもたち
4	8	731部隊展・京都
5	9	戦争と文学
5	10	戦争と教育
5	11	原爆開発と投下への道
6	12	沖縄戦
6	13	世界報道写真展1995年次展／回顧展
7	14	戦時下日本の報道写真
8	15	戦場の枯葉剤
9	16	世界報道写真展1996年次展
10	17	放射能発見100年・核実験
11	18	憲法・平和・未来
12	19	世界報道写真展1997年次展
13	20	毒ガス展in京都

14	21	青い麦のようにたくましく
15	22	戦没画学生「祈りの絵」展
15	23	世界報道写真展1998年次展
16	24	日本の平和博物館展
17	25	「プランゲ文庫」展
18	26	世界報道写真展1999年次展
19	27	科学者レオナルド・ダ・ヴィンチ展

●事業などの報告

号	題
1	開館1周年の歩み
1	寄贈者名簿（1992年度）
2	ボランティア・ガイド養成講座開かれる
3	「学徒出陣50年」の立命館大学のとりくみ
4	平和と長寿をねがう 中野信夫絵画展
5	立命館大学戦後50年平和企画関連シンポジウム
6	ミュージアム所蔵資料の貸出（1995年）
7	世界大学生平和サミット
7	巡回展「戦争と教育」
10	「沖縄の米軍」パネル展
10	反戦文学運動「クラルテ」国際シンポジウム
10	講演会「戦争を語り伝える—博物館の可能性」
10	『ナナムの家』シネマ&トークの夕べ

11	国際親善平和コンサート—ヴァイオリン協奏曲と合唱ミサ曲の夕べ
13	1997年度憲法施行50年記念企画
19	国際高齢者年シンポジウム

●案内

号	題
2	見学資料費徴収
3	ミュージアムガイドとスタンプの紹介
4	ミュージアムグッズの紹介
6	火の鳥のジグソーパズル作成
9	ホームページ開設
10	PRビデオ「火の鳥と出会う旅」完成
12	「イラストマップ」作成
13	『常設展示詳細解説』『資料目録』第1集刊行
17	「第3回世界平和博物館会議報告書」刊行
18	「ミュージアムガイド」中国語版、朝鮮語版作成
19	『立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要』第1号刊行

●館長あいさつ

号	回	題
5	1	戦後50年に想う
6	2	平和博物館とはなんぞや

7	3	非合理性と主体性
8	4	放射能発見100年に想う
9	5	加害展示と原爆被害に想う
10	6	国と民間と
11	7	未明と山頭火と
12	8	悪魔退治
13	9	見る、聞く、言う
14	10	核拡散を叱る
15	11	第3回世界平和博物館会議の成果
16	12	青年団と歩んだ20年
17	13	オランダ、ベルギーの旅路
18	14	臨界事故現場に行つて
19	15	加藤周一初代館長のこと

●企画（運営）委員連載

号	回	題 (執筆者)
8	1	国際平和ミュージアムの「研究」と「教育」 (金丸裕一)
9	2	核兵器と国家、私たちはどう考えるのか (兵藤友博)
10	3	平和ミュージアム5周年に寄せて (松岡正美)
11	4	明治維新と日本の河川、そして平和 (山崎有恒)

12	5	なぜ、人を殺してはならないのか？ (豊下植彦)
13	6	“ふるさと”と世代の対話 (中村雅秀)
15	7	プリーモ・レーヴィとアウシュヴィッツ (竹山博英)
16	8	ベトナムと「チーお母さん」 (高橋文利)
17	9	戦争の記憶とその亀裂 (赤沢史朗)
18	10	中・台衝突時に日本は何をなすべきか (文楚雄)
19	11	里山と川原と海浜砂丘からの風景 (遠藤彰)

●ミュージアムおすすめの一冊（執筆者は山辺昌彦）

号	回	書名
1	1	吉見義明編『従軍慰安婦資料集』他
2	2	わだつみ会編『学徒出陣』他
3	3	小林英夫著『日本軍政下のアジア「大東 亜共栄圏」と軍票』
4	4	山中恒著『子どもたちの太平洋戦争』
5	5	アジアに対する日本の戦争責任を問う民 衆法廷準備会編『天皇ヒロヒトの戦争 責任・戦後責任』
6	6	江口圭一著『日本の侵略と日本人の戦争観』
7	7	吉見義明・伊香俊哉著『七三一部隊と 天皇・陸軍中央』

8	8	矢沢寛・小沢節子著『音楽・美術の戦争責任』
9	9	弓削達著『憲法九条は国際政治に無力か』
10	10	教科書検定訴訟を支援する全国連絡会編『教科書から消せない戦争の真実』
11	11	中村政則著『近現代史をどう見るか—司馬史観を問う』
12	12	田中伸尚著『政教分離—地鎮祭から玉串料まで』
13	13	藤原彰著『南京の日本軍』、笠原十九司著『南京事件』
14	14	色川大吉著『近代日本の戦争—20世紀の歴史を知るために』
15	15	早乙女勝元著『戦争を語りつぐ—女たちの証言』
16	16	松尾章一編『中国人戦争被害者と戦後補償』
17	17	坂本龍彦著『じいちゃん引き揚げ少年だった』
18	18	戦争遺跡保存全国ネットワーク編『戦争遺跡は語る』
19	19	清水勲著『マンガ誕生』

- スポット ミュージアムの収蔵品
(執筆者は、5号から15号までは渡辺久栄、16号から加戸綾乃)

号	回	題
5	1	京都の空襲 (西陣空襲、馬町空襲)
6	2	すごろく

7	3	紙芝居
8	4	軍艦の形をした貯金箱
9	5	愛国百人一首
10	6	国防色の旧海軍下士官略帽帽章
11	7	パロディーになった『戦陣訓』
12	8	鹿地巨 帰国歓送大会 寄せ書き
13	9	「国民精神鉛筆」と「鉄兜消しゴム」
14	10	レコードと戦争
15	11	戦時意識高揚ポスター
16	12	日用品から見る隣組
17	13	蛇腹式防空用電灯カサ
18	14	嶋さんの奉公袋
19	15	片山さんのスケッチ

●その他記事

号	題 (執筆者)
1	スポット「アンネのバラ」が咲いた (宮崎智恵子)
1	私の戦争体験 1 (竹内欣)
1	抄録 オカルトに浮かれている場合か (安斎育郎)
2	スポット「火の鳥」 (山辺昌彦)

2	私の戦争体験 2 (竹内欣)
2	抄録 久保山すずさんのこと (安斎育郎)
3	スポット「嵐の中の母子像」 (壺井由紀)
3	私の戦争体験 3 (竹内欣)
3	ボランティア・ガイド養成講座に参加した受講生の 思いと「平和友の会」 (川畑康郎)
3	平和博物館の国際ネットワーク (薬師寺公夫)
4	スポット「防空電球」 (渡辺久栄)
4	平和博物館会議が創設されました (林堅太郎)
4	「戦後50年平和企画」の推進にあたって (安斎育郎)
4	国際平和ミュージアムが『ハラルド・トリビューン』紙に登 場 (安斎育郎)
5	世界大学生平和サミット案内 (広末良子)
6	世界大学生平和サミット準備状況 (広末良子)
9	憲法50周年、ミュージアムをアジアの平和開 発の拠点に (藤岡惇)
9	あるエスペ란ティストからの手紙 (アトリー・イネフ)

10	PRビデオ撮影日記 (中村由紀子)
12	研修旅行日誌 (相賀啓司)
14	言葉を奪う／奪われる (宇野木洋)
15	「祈りの絵」展のこと (窪島誠一郎)
16	「日本人参加者のギャザリング」報告 (宇野木洋)
16	第3回世界平和博物館会議記念講演会によせ て (西村洋子)
16	見学校からのお手紙 (今河雅子)
16	課研修旅行日誌 (今河雅子)
17	「無言館」収蔵作品紹介 (窪島誠一郎)
18	第6回平和博物館会議に参加して (兵藤友博)
18	石垣記念館を訪ねてー課研修より (今河雅子)
19	「無言館」コーナー開設に想う (広末良子)

●これら以外に、「平和へのメッセージ」(常設展感想文など)、「ある日ある時のミュージアム」(常設展での平和友の会によるガイドの状況、16号から連載)、入館状況、団体見学状況、事業予告などを掲載している。

6、資料の特別利用

展示会などへの主な貸出状況は次の通りである。

1992年度

●田辺町平和展

主催：田辺町
会場：田辺町コミュニティホール
会期：8.7～15
貸出：資料31点

●'92あいち平和のための戦争展

主催：実行委員会
会場：名古屋市市政資料館
会期：8.13～16
貸出：資料6点

●'92平和のための京都の戦争展

主催：実行委員会
会場：京都教育文化センター
会期：8.13～16
貸出：資料303点

●第10回宇治城陽久御山平和まつり

主催：実行委員会
会場：城南勤労者福祉会館
会期：9.12
貸出：資料37点

●下京子どもまつり・ミニ戦争展

主催：実行委員会
会場：興正寺
会期：11.1
貸出：資料34点

1993年度

●平和のつどい

主催：京都生協田辺行政区
会場：田辺センター
会期：7.17
貸出：資料18点

●第13回芦屋原爆絵画展

主催：憲法を守る芦屋市民の会
会場：芦屋市民センター
会期：7.29～31

貸出：資料4点

●平和のための母と子の戦争展

主催：鳥取県生活協同組合
会場：元町コミュニティホール
会期：7.30・31
貸出：資料19点

●田辺町平和展

主催：田辺町
会場：田辺町コミュニティホール
会期：8.9～15
貸出：資料37点

●綾部戦争展

主催：綾部地方労働組合協議会
会場：アスパ
会期：8.13～15
貸出：資料3点

●第11回宇治城陽久御山平和まつり

主催：実行委員会
会場：城南勤労者福祉会館
会期：10.3
貸出：資料129点

●京都教育大学「学徒出陣50周年を考える会」

主催：京都教育大学教職員組合
会場：京都教育大学
会期：11.5
貸出：資料74点

●戦争と平和のつどい

主催：コープしが
会場：西武百貨店大津店
会期：1.19～21
貸出：資料28点

1994年度

●アジア人宣言—ピースフェスティバル1994

主催：実行委員会
会場：日本青年館
会期：5.6・7
貸出：資料17点

●七夕平和祭

主催：京都府職員労働組合綴喜支部
会場：京都府田辺振興局会議室
会期：7.4～8
貸出：資料9点

●'94東大阪平和のための戦争展

主催：実行委員会
会場：東大阪市立市民会館
会期：7.30・31
貸出：資料30点

●平和のための母と子の戦争展

主催：鳥取県生活協同組合
会場：元町コミュニティホール
会期：7.29～31
貸出：資料27点

●下京地域戦争展

主催：京都市教職員組合
会場：久保公園・西七条診療所
会期：7.31
貸出：資料49点

●田辺町平和展

主催：田辺町
会場：田辺町コミュニティホール
会期：8.9～15
貸出：資料111点

●平和のつどい資料展

主催：宇治田原町非核平和都市推進協議会
会場：宇治田原町住民体育館
会期：8.6
貸出：資料78点

●平和のための船井戦争展

主催：実行委員会
会場：園部国際交流会館
会期：9.10
貸出：資料27点 写真パネル61枚

●第12回宇治城陽久御山平和まつり

主催：実行委員会
会場：城南勤労者福祉会館

会期：9.11

貸出：資料83点 写真パネル27枚

●平和展

主催：真宗大谷派名古屋教区教化センター
会場：真宗大谷派名古屋別院
会期：3.18～24
貸出：資料8点

1995年度

●被災50周年「呉戦災展」

主催：呉戦災を記録する会
会場：呉市役所
会期：6.28～7.2
貸出：資料39点

●企画展 和歌山大空襲の時代

主催：和歌山市立博物館
会場：和歌山市立博物館
会期：7.9～8.20
貸出：資料7点 写真パネル2枚 写真2点

●企画展 葛飾区の戦時生活

主催：葛飾区郷土と天文の博物館
会場：葛飾区郷土と天文の博物館
会期：7.23～9.3
貸出：資料38点

●'95平和のための戦争展 わかやま

主催：実行委員会
会場：和歌山市民会館
会期：7.27～30
貸出：資料80点

●'95東大阪平和のための戦争展

主催：実行委員会
会場：東大阪市立市民会館
会期：7.29・30
貸出：資料39点

●平和について考えるつどい 「戦火の中のこどもたち」パネル展

主催：甲南町教育委員会
会場：甲南町役場
会期：8.1～15

貸出：写真パネル62枚

●平和のつどい資料展

主催：宇治田原町非核平和都市推進協議会

会場：宇治田原町住民体育館

会期：8.1～15

貸出：資料10点 写真パネル67枚

●平和への道しるべ展

主催：大津市

会場：西武百貨店大津店 6階プラザ

会期：8.2～7

貸出：写真パネル18枚

●平和パネル展

主催：津島市教育委員会

会場：津島地域文化広場・児童科学館

会期：8.2～9

貸出：写真パネル24枚

●アウシュビッツ写真展

主催：草津市

会場：草津市立図書館

会期：8.2～15

貸出：図書17冊

●平和展

主催：甲西町立図書館

会場：甲西町立図書館

会期：8.5～13

貸出：資料4点 写真パネル63枚

●終戦50周年特別展示 あゝ戦争とわたしたち

主催：静岡市平和資料館の設立をすすめる市民の会

会場：静岡市民文化会館

会期：8.9～13

貸出：資料48点

●田辺町平和展

主催：田辺町

会場：田辺町コミュニティホール

会期：8.9～15

貸出：資料22点

●'95平和展

主催：藤井寺市

会場：藤井寺市市民総合会館

会期：8.11～13

貸出：資料28点

●平和のための船井戦争展

主催：実行委員会

会場：園部国際交流会館

会期：9.9

貸出：資料25点

●第13回宇治城陽久御山平和まつり

主催：実行委員会

会場：城南勤労者福祉会館

会期：9.10

貸出：資料83点

●下京平和まつり

主催：実行委員会

会場：久保公園

会期：9.10

貸出：資料28点

●企画展 戦争から豊かな未来へ

主催：徳島県立博物館

会場：徳島県立博物館

会期：10.17～11.19

貸出：資料7点

●戦災と平和展

主催：姫路市

会場：姫路市文化センター

会期：10.22～29

貸出：資料7点 写真パネル6枚

1996年度

●戦争と子どもたち展

主催：姫路市平和資料館

会場：姫路市平和資料館

会期：4.26～5.26

貸出：資料26点

●七夕平和祭

主催：京都府職員労働組合綴喜支部

会場：京都府職員労働組合綴喜支部

会期：7.9

貸出：写真パネル17枚

●平和を考える市民フォーラム'96

主催：長岡京市

会場：中央公民館

会期：7.21

貸出：写真パネル1組

●'96東大阪平和のための戦争展

主催：実行委員会

会場：東大阪市立市民会館

会期：7.27・28

貸出：資料74点

●平和について考える戦時下の生活展

主催：甲南町

会場：町役場

会期：8.1～15

貸出：資料35点

●平和推進旬間資料展

主催：宇治田原町非核平和都市推進協議会

会場：町総合文化センター

会期：8.1～15

貸出：資料15点 写真パネル7枚

●'96平和展

主催：藤井寺市

会場：藤井寺市民総合会館

会期：8.9～11

貸出：資料51点 写真パネル10枚

●田辺町平和展

主催：田辺町

会場：田辺町コミュニティホール

会期：8.9～15

貸出：資料22点

●平和写真展

主催：宇治市平和都市推進協議会

会場：宇治市役所

会期：8.12～20

貸出：写真パネル21枚

●平和の道しるべ展

主催：大津市

会場：生涯学習センター

会期：8.13～15

貸出：写真パネル19枚

●つづき平和まつり

主催：実行委員会

会場：田辺町コミュニティホール

会期：9.8

貸出：資料38点

●第14回宇治城陽久御山平和まつり

主催：実行委員会

会場：城南勤労者福祉会館

会期：9.8

貸出：資料125点

●平和のための船井戦争展

主催：実行委員会

会場：園部体育館

会期：9.14

貸出：資料7点

●人権展

主催：徳島県立城北高等学校

会場：城北高等学校

会期：11.1～8

貸出：資料3点 写真パネル7枚

●戦争と女性たち展

主催：姫路市平和資料館

会場：姫路市平和資料館

会期：10.8～11.10

貸出：資料57点

●文化祭展示

主催：奈良市立京西中学校

会場：京西中学校

会期：10月

貸出：資料53点 写真パネル84枚

●おおやまざきまつり

主催：大山崎町

会場：町体育館

会期：11.2・3

貸出：写真パネル45枚

●第19回兵庫の「語りつごう戦争」展

主催：実行委員会

会場：妙法華院

会期：12.6～10

貸出：資料16点

●'96ノーモア・ウォーつどい

主催：ならコープ

会場：コープおしくま

会期：12.8

貸出：資料2点

●平和のための京都の軍隊展

主催：戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会

会場：そうぞう館

会期：12.14・15

貸出：資料24点

●'96戦争と平和を考えるパネル展

主催：中主町

会場：豊積の里総合センター

会期：2.14・15

貸出：資料22点 写真パネル35枚

1997年度

●子ども平和教室「体験しよう！子どもたちが見た戦争」

主催：姫路市平和資料館

会場：姫路市平和資料館

会期：4.14～6.8

貸出：資料19点 写真パネル4枚

●'97平和のための大阪の戦争展

主催：実行委員会

会場：通天閣

会期：7.26～8.3

貸出：資料12点

●'97東大阪平和のための戦争展

主催：実行委員会

会場：東大阪市立市民会館

会期：7.26・27

貸出：資料63点 写真パネル2組

●親と子のミニ戦争展

主催：京都生協西賀茂組合センター委員会

会場：京都生協西賀茂組合センター

会期：7.27

貸出：資料20点

●'97平和のための京都の戦争展

主催：実行委員会

会場：立命館大学国際平和ミュージアム

会期：8.1～10

貸出：資料24点

●平和のための舞鶴の戦争展

主催：実行委員会

会場：舞鶴市政記念館

会期：8.2・3

貸出：写真パネル5枚

●戦争絵画・写真展

主催：京都Y M C A 洛西センター

会場：京都Y M C A 洛西センター

会期：8.6～9

貸出：写真パネル1組

●戦争に関する資料展

主催：甲南町教育委員会

会場：甲南町役場

会期：8.6～15

貸出：資料21点

●'97平和展

主催：藤井寺市

会場：藤井寺市民総合会館

会期：8.8～10

貸出：資料44点 写真パネル1組

●平和の道しるべ展

主催：大津市

会場：大津市役所

会期：8.18～22

貸出：写真パネル4組

●平和のための船井戦争展

主催：実行委員会
会場：園部体育館
会期：9.13
貸出：写真パネル1組

●文化祭

主催：立命館中学校・高等学校
会場：立命館中学校・高等学校
会期：10.4・5
貸出：写真パネル1組

●文化祭

主催：京都市立醍醐中学校
会場：醍醐中学校
会期：10.5・6
貸出：写真パネル17枚

●憲法展

主催：立命館大学図書館
会場：立命館大学図書館
会期：11.1～30
貸出：資料13点

●第15回宇治城陽久御山平和まつり

主催：実行委員会
会場：城南勤労者福祉会館
会期：11.23
貸出：資料43点

●平和展

主催：聖母学院小学校
会場：聖母学院小学校
会期：11.27～29
貸出：資料26点

●平和のための「伏見の軍隊と戦争」展

主催：実行委員会
会場：京都教育大学
会期：12.11・12
貸出：資料82点

1998年度

●平和学習

主催：東大阪市立若江中学校
会場：若江中学校

会期：7.7～18
貸出：資料6点

●原爆展

主催：京都YMCA洛西センターじゃむじゃむ
会場：じゃむじゃむホール
会期：7.9～11
貸出：写真パネル1組

●企画展 戦争と子どもたち

主催：福山市人権平和資料館
会場：福山市人権平和資料館
会期：7.15～8.9
貸出：写真パネル1組

●歌と平和の夕べ

主催：京都生協右京区行政区平和委員会
会場：京都生協右京支部
会期：7.25
貸出：資料5点

●'98東大阪平和のための戦争展

主催：実行委員会
会場：東大阪市立市民会館
会期：7.25・26
貸出：資料68点

●'98親と子の戦争展

主催：実行委員会
会場：倉吉市伯耆しあわせの里
会期：7.25・26
貸出：資料36点

●'98平和のための大阪の戦争展

主催：実行委員会
会場：通天閣
会期：7.25～8.2
貸出：資料11点

●'98平和のための京都の戦争展

主催：実行委員会
会場：立命館大学国際平和ミュージアム
会期：7.31～8.9
貸出：資料28点

●平和のための亀岡の戦争展

主催：実行委員会

会場：コープかめおか

会期：8.1・2

貸出：資料63点

会期：11.11～1999.3.31

貸出：資料1点

●「戦時下日本の報道写真」と市民のくらし展

主催：高知市役所

会場：高知市立自由民権記念館

会期：8.6～15

貸出：資料7点 写真パネル1組

1999年度

●日本議会政治の歩み特別展第4回—昭和の開幕から
新国会の誕生まで

主催：衆議院憲政記念館

会場：憲政記念館

会期：5.20～6.8

貸出：資料15点

●'98平和展

主催：藤井寺市

会場：藤井寺市民総合会館

会期：8.7～9

貸出：資料52点

●戦争展

主催：箕面市西南小学校

会場：西南小学校

会期：7.12

貸出：資料22点 写真パネル2組

●平和の道しるべ展

主催：大津市

会場：明日都浜大津

会期：8.13～16

貸出：写真パネル2組

●'99東大阪平和のための戦争展

主催：実行委員会

会場：東大阪市立市民会館

会期：7.24・25

貸出：資料44点

●文化祭 地雷撲滅キャンペーン

主催：京都市立蜂ヶ丘中学校

会場：蜂ヶ丘中学校

会期：10.7・8

貸出：資料1点

●'99平和のための戦争展 わかやま

主催：実行委員会

会場：わかやま市民生協 組合員ホール

会期：7.29～8.1

貸出：資料61点

●戦争写真パネル展

主催：水口町

会場：水口町役場

会期：10.15～30

貸出：写真パネル10枚

●'99平和のための京都の戦争展

主催：実行委員会

会場：立命館大学国際平和ミュージアム

会期：8.1～10

貸出：資料17点

●平和パネル展

主催：びわ町教育委員会

会場：びわ町環境改善センター

会期：10.31～11.1

貸出：写真パネル1組

●戦争と子どもたち展

主催：甲西町立図書館

会場：甲西町立図書館

会期：8.6～15

貸出：資料89点 写真パネル30枚

●常設展

主催：京都市学校歴史博物館

会場：京都市学校歴史博物館

●パネル展 戦争と子ども・女性

主催：甲南町教育委員会

会場：甲南町役場

会期：8.2～13

貸出：写真パネル13枚

●宮津・与謝平和の集い

主催：実行委員会
会場：宮津会館
会期：8.7
貸出：資料65点

●向日市民平和と人権のつどい 平和展

主催：向日市役所
会場：向日市民会館
会期：8.12
貸出：写真パネル1組

●人権と平和のつどい

主催：能勢町
会場：ふるさと会館
会期：8.29
貸出：写真パネル1組

●いのち・愛・人権のつどい

主催：草津市役所
会場：草津文化芸術会館
会期：9.23
貸出：資料32点 写真パネル2組

●左京ミニ戦争展

主催：京都生協左京区行政区委員会
会場：コープいわくら
会期：11.22・23
貸出：資料2点

●横浜市の学童疎開展PART3—21世紀の子どもたちへのメッセージ

主催：疎開問題研究会
会場：地球市民かながわプラザ
会期：3.7～26
貸出：パネル2枚

IV 規程

立命館大学国際平和ミュージアム規程は1992年3月27日の理事会で制定された。

1998年4月1日に、立命館大学国際平和センターの設置に伴い、立命館大学国際平和ミュージアム規程が廃止になり、立命館大学国際平和センター規程と立

命館大学国際平和ミュージアム運営取扱規則が制定された。

①立命館大学国際平和ミュージアム規程

立命館大学国際平和ミュージアム規程
(1992年3月27日規程第260号)

(ミュージアムの設置)

第1条 本大学に立命館大学国際平和ミュージアム(Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University) (以下「ミュージアム」という。)を附置する。

(目的)

第2条 ミュージアムは、戦争と平和に関する資料を収集・保管・展示するとともに、内外の教育・研究に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 ミュージアムは、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 平和教育・研究のための資料収集・保管・展示
- (2) 平和教育・研究を促進するための事業
- (3) 博物館学芸員課程の実習
- (4) 国内・外の博物館、研究施設などとの交流
- (5) その他ミュージアムの目的達成のため必要と認める事業

(開館時間および休館日)

第4条 ミュージアムの開館時間および休館日は次の通りとする。

1 開館時間

開館時間は午前9時から午後4時半までとする。但し、館長が特別な事情があると判断し、許可したときはこの限りではない。

2 休館日

- (1) 月曜日および祝祭日の翌日
- (2) 年末年始休館(12/28～1/6)、夏期休暇中の大学が定める休館日
- (3) その他 前記休館日以外に臨時の休館日をおくことができる。

(組織)

第5条 ミュージアムの管理運営のため、次の職員を置く。

- (1) 館長 1名
- (2) 企画局長 1名
- (3) 事務責任者 1名

(4) 事務職員 若干名

但し、ミュージアムの事業のため、必要のある場合には、館長を補佐する者を置くことができる。

(館長)

第6条 館長は学長がこれを任命する。

2 館長はミュージアムの事業を統括し、ミュージアムを代表する。

3 館長の任期は3年とする。但し、再任は妨げない。

(企画局長)

第7条 企画局長は本学教員より学長がこれを任命する。

2 企画局長は館長の指示のもとにミュージアムの事業を推進する。

3 企画局長の任期は2年とする。但し、再任は妨げない。

(所轄)

第8条 ミュージアムの管理運営は常任理事会の所轄のもとに、総務部長が所管する。

(運営委員会)

第9条 常任理事会にミュージアム運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は次の委員をもって構成する。

(1) 総長

(2) 副総長

(3) 専務理事

(4) 館長

(5) 教学部長

(6) 学生部長

(7) 企画局長

(8) ミュージアム企画委員から2名

(9) 事務責任者

3 運営委員会はミュージアムの管理・運営に関し、次の事項を審議する。

(1) ミュージアムの年間行事計画及び予算・決算に関すること

(2) ミュージアムの諸規程及び細則に関すること

(3) その他、ミュージアムの管理・運営に関する重要な事項

4 運営委員会は年2回開催し、その他臨時に開催することができる。

5 運営委員会に委員長をおき、総長がこれにあたる。

6 委員長は運営委員会を召集し、その議長となる。

7 運営委員の任期は夫々の役職の在任期間とする。

8 運営委員会の事務はミュージアム事務室が取り扱う。

(企画委員会)

第10条 ミュージアムの事業に関連する業務の企画・実施、およびミュージアムの管理・運営に関する事項等を審議するためミュージアム企画委員会(以下「企画委員会」という。)を置く。

2 企画委員会は次の企画委員をもって構成する。

(1) 館長

(2) 企画局長

(3) 教職員から5名

(4) 学識経験者から若干名

(5) 事務責任者

3 企画委員の任期は第2項の(3)号、(4)号にあっては3年とし、再任を妨げない。

その他の各号にあっては夫々の役職の在任期間とする。

4 企画委員会の事務はミュージアム事務室が取り扱う。

(細則)

第11条 この規程に定めるもののほか、ミュージアムの管理運営に関する細則は別に定める。

(改廃)

第12条 本規程の改廃は、常任理事会がこれを行う。

附則

この規程は、1992年4月1日から施行する。

②立命館大学国際平和センター規程

立命館大学国際平和センター規程

(1998年3月25日規程第370号)

(国際平和センターの設置)

第1条 本学園に立命館大学国際平和センター(World Peace Development Center, Ritsumeikan University、以下「センター」という。)を設置する。

(目的)

第2条 センターは、平和創造に向けた本学園の研究と教育を推進し、国際社会における平和に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため次の事項を統括的に行なう。

(1) 平和および人権の研究を推進する

(2) 平和および人権の教育を推進する

(3) 立命館大学国際平和ミュージアム運営取扱規則に定める事項

(4) 平和研究・平和教育および人権教育を推進するための資料収集、保管、展示

(5) その他センターの目的達成のために必要と認め
る事項
(構成)

第4条 センターは次の4セクター(部門)から構成
する。

- (1) 平和・人権研究セクター
- (2) 平和教育セクター
- (3) 国際平和ミュージアム
- (4) メディア・資料部門

2 各セクター(部門)の運営取扱規則は別途定める。
(センター長)

第5条 センターにセンター長を置く。

2 センター長は副総長がこれを任命する。

3 センター長はセンターの活動を統括し、センター
を代表する。

4 センター長の任期は3年とする。但し、再任は妨
げない。

5 センター長は、国際平和ミュージアム館長を兼ね
ることができる。
(センター評議会)

第6条 センターの基本方針を審議・決定するためセ
ンター評議会(以下「評議会」という。)を置く。

2 評議会は次の委員をもって構成する。

- (1) 副総長
- (2) 専務理事
- (3) センター長
- (4) 研究部長
- (5) 教学部長または教学部副部長
- (6) 学生部長または学生部副部長
- (7) 中等教育部長
- (8) 教育研究事業部長
- (9) その他議長が出席を必要と認めた者

3 評議会は副総長が召集し、その議長となる。

4 評議会は委員の過半数の出席により成立し、議決
は出席者の過半数の賛成による。
(センター運営委員会)

第7条 センターの運営に関する事項を審議するため
センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)
を置く。

2 運営委員会は、センター長および第4条で定める
各セクター(部門)の責任者によって構成する。

3 運営委員会の運営取扱規則は別途定める。
(事務局)

第8条 センターに関する事務局は、教育研究事業部
教育文化事業課が担当する。

(規程の改廃)

第9条 本規程の改廃は運営委員会、評議会の議を経
て、常任理事会の承認を得るものとする。

附則

この規程は、1998年4月1日から施行する。

③立命館大学国際平和ミュージアム運営取扱規則

立命館大学国際平和ミュージアム運営取扱規則

(1998年3月4日規程第272号)

(ミュージアムの設置)

第1条 立命館大学国際平和センターのもとに、立命
館大学国際平和ミュージアム(Kyoto Museum for
World Peace, Ritsumeikan University)(以下「ミ
ュージアム」という。)を附置する。

(目的)

第2条 ミュージアムは、戦争と平和に関する資料を
収集・保管・展示するとともに、内外の教育・研究
に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 ミュージアムは、前条の目的を達成するため
次の事項を行う。

- (1) 平和教育・研究・展示のための資料収集・保管
- (2) 平和教育・研究・展示の充実と整備
- (3) 博物館学芸員課程の実習
- (4) 国内・外の博物館、研究施設などとの交流
- (5) その他ミュージアムの目的達成のため必要と認
める事業

(開館時間および休館日)

第4条 ミュージアムの開館時間および休館日は次の
通りとする。

2 開館時間

開館時間は午前9時半から午後5時までとする。
但し、館長が特別な事情があると判断し、許可した
ときはこの限りではない。

3 休館日

- (1) 月曜日および祝日の翌日
- (2) 年末年始および夏期休暇中の大学が定める日
- (3) その他前記休館日以外に臨時の休館日をおくこ
とができる。

(館長)

第5条 ミュージアムに館長を置く。

- 2 館長は副総長がこれを任命する。
- 3 館長はミュージアムの事業を統括し、ミュージアムを代表する。
- 4 館長の任期は3年とする。但し、再任は妨げない。
- 5 必要のある場合には、館長を補佐する者を置くことができる。

(企画局長)

第6条 ミュージアムに企画局長を置く。

- 2 企画局長は副総長がこれを任命する。
- 3 企画局長は館長を補佐し、ミュージアム事業の円滑な推進をはかる。
- 4 企画局長の任期は2年とする。但し、再任は妨げない。

(所轄)

第7条 ミュージアムの管理運営は国際平和センターの所轄のもとに、教育研究事業部長が所管する。

(企画運営委員会)

第8条 ミュージアムの事業に関連する業務の企画・実施、及びミュージアムの管理・運営に関する事項等を審議するためミュージアム企画運営委員会(以下「企画運営委員会」という。)を置く。

- 2 企画運営委員会は次の企画運営委員をもって構成する。
 - (1) 館長
 - (2) 企画局長

- (3) 教職員から若干名
- (4) 学識経験者から若干名
- (5) 事務責任者

3 企画運営委員会に委員長をおき、館長がこれにあたる。

4 委員長は企画運営委員会を召集し、その議長となる。

5 企画運営委員の任期は第2項の(3)号、(4)号にあっては3年とし、再任を妨げない。その他の各号にあっては夫々の役職の在任期間とする。

6 企画運営委員会の事務は教育文化事業課が取り扱う。

(細則)

第9条 この規程に定めるもののほか、ミュージアムの管理運営に関する細則は別に定める。

(改廃)

第10条 本規程の改廃は、国際平和センター評議会の議を経て、常任理事会がこれを行う。

附則

立命館大学国際平和ミュージアム規程(1992年3月27日規程第260号)は、1998年3月31日付で廃止する。

附則

この取扱規程は、1998年4月1日から施行する。

(文責 山辺昌彦)